

2023 年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4070501954		
法人名	有限会社 マエダ		
事業所名	グループホームはなまる	ユニット名	2F
所在地	福岡県北九州市小倉南区中曽根1丁目4-10		
自己評価作成日	2024年2月26日	評価結果市町村受理日	2024年4月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般財団法人 福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市中央区薬院4-3-7 フローラ薬院2F		
訪問調査日	2024年4月2日	評価確定日	2024年4月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

・個々の入居者のADLに合わせたリハビリ（脳トレ、体力向上のための運動）をケアカンファで協議し、スタッフが毎日課題として取組んでいる。→その結果、体力の向上、維持という効果に加え、ホームの雰囲気が明るく、活気あるものとなっている。

・環境整備の一環として、玄関前を四季の花々で飾り、入居者、家族、来訪者また地域の方に喜んで貰っている。

・毎月入居者全員参加のレクリエーションを実施し、その様子を「はなまる便り」で伝え、信頼関係の構築に努めている。

＜地域との交流＞

・地域の方の傾聴ボランティアを受け入れ、遠足等外出の際には車椅子介助のボランティアを依頼している。

・管理者が曾根神幸祭（市無形文化財）の山笠保存会のメンバーとなったり、また28年度から開始された地域の年配者が集まる月1度の「中曽根ふれあいサロン」に毎回ケアマネが参加して健康相談を実施、地域住民と交流を深めている。その他、校区のゴルフ大会や町内の夜間パトロールに参加している。

※但し、上記の地域との交流は、コロナ禍で神幸祭、ゴルフ大会以外は全て中断している。

・町内の散策の際に入居者とともにゴミ拾いを行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

自己評価および外部評価結果

自己 外部			自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「地域で仲良く、自信と笑顔」を理念として、地域に溶け込んだ運営に努めている。また、入居者、家族はもちろん、訪問者（業者等）にも笑顔で接する様に徹底している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に入会し、コロナ禍の前は町内の文化祭、清掃、避難訓練、お祭り、夜間パトロール、神事等に参加し、地域の住民との交流に努めていた。また地域の幼稚園、小中学校と交流を図り、地域住民のボランティアを受け入れていた。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	小中学生、園児をホームに招いたり、中学生の職場体験や地域ボランティアを積極的に受け入れ、認知症介護に対する理解を深めてもらっていた。また26年2月より、「介護相談窓口」を開始する一方、29年度に小学校の「福祉教育」を当ホームで行った。再開したいと切に思う。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	参加メンバーのうち、民生委員や老人会会長ら地域の方々は地域行事に精通しており、様々な行事や神事の説明とともにそれらへの参加を仲介してくれ、大いに役立っている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	こちらからGH協議会の研修会への市担当者の参加依頼や、逆に市主催のワークショップへの参加要請を受けるなど、お互いに協力関係を築いており、今後もこの関係を継続して行きたい。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ホームが交通量の多い道路に面しているため、安全上の観点からやむを得ず玄関、勝手口に施錠している（ご家族には説明、了解を得ている）。また所内研修にて、身体拘束に対する意識をスタッフ間で共有する様にしている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修や所内勉強会を通して、職員全体で虐待の無い介護に取り組んでいる。「虐待の糸口は言葉遣いから」をスタッフ間に浸透させている。		
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	所内の勉強会で職員が学ぶ機会を持つとともに、権利擁護のポスター、第三者委員の連絡先を玄関に掲示している。権利擁護の内容は多岐にわたるので、様々な事例を勉強会で紹介して意見交換をしていく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時や契約内容の改定時には、その内容につき利用者、家族に口頭、文書で十分に説明し、承諾を得ている。また法改正による加算の追加等がある場合、全家族に家族会および文書にて説明し、同意書を提出して頂いている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に一度家族全員に介護サービスに対するアンケート、家族会での意見交換を実施し、運営に反映している（今年度は中止）。そのほか家族とはは運営推進会議や個別にLINEを通じて意見交換（苦情含む）を行っている。		
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	コロナ感染対策で、全体ミーティングを中断している為、リーダー会議、各ユニットの申し送りにて職員の意見・提案を受けて事業所の運営向上を図っている。また気になるスタッフにはケアマネ、管理者が随時声かけを行っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員間に労働条件の不公平感が出ないようにソフト作りに留意している（ただし、様々な家庭環境があるため、理解を得る努力は必要）。また職員間の切磋琢磨を期待し、業務改善のアイデアを出した職員には「はなまる大賞」という賞を与えている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	職員採用に関して、性別や年齢などを採用基準にはしておらず、定年（65歳）後も勤務希望者はパート職員として継続して勤務してもらっている（現在1名）。また個々の能力に応じて、環境整備や物品購入等の業務を分担している。将来的には外国人採用も視野に入れている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	権利擁護、身体拘束や虐待の無い介護、法令順守などの勉強会の折に、入居者の人権に関する教育を実施している。またややもすれば乱れたり、馴れ馴れしくなりがちな入居者に対する言葉遣いを職員間で戒めるよう指導している。		
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	前回同様事業所内での第一プライオリティは「コロナ感染対策」で、「外からウイルスを持ち込まない！」に腐心しているため、ZOOM研修、書面研修に頼らざるを得ず、この件に関しては必ずしも十分な対策を講じることができていない。但し前回の外部評価以降、管理者研修1名、実践者研修1名受講した。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	前項同様、十分な対策が取れていないが、GH協議会のグループLINEを作り、他の事業所と意見交換を行っている。また令和6年2月7日のGH協議会主催の「行政との意見交換会」で管理者が他の地域の管理者、行政担当と意見交換を行った。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	フェースシートや聞き取りで、本人はもちろん、家族の希望を取り入れるよう努めている。また人間関係構築のために、本人が何と呼ばれたいか要望を聞き、呼称をきめている。またおやつの際は画一的に飲み物を提供することなく、希望を聞いている。1月に入居した方には本人の希望で晩酌用のビールを提供している。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時に家族とLINEの交換を行い、入居後も双方からの要望を伝えあっている（手紙や電話とよりも気楽に相談や連絡ができる）。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時に趣味、習慣、好き嫌い等を聞き取り、居室の間取りを含め本人が過ごしやすい環境作りに努めている。また日々の申し送りや、担当者会議等で、現状の必要な支援を見極め、迅速に対応している。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日中、ほとんどの入居者はリビングですし、スタッフも積極的にコミュニケーションをとるよう努めている。また、可能な方には料理の下準備や掃除、洗濯物たたみなど、簡単な家政を担ってもらっている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の方々は、それぞれいろいろな事情を抱えておられるので、一律的な対応にならないよう、家族支援を行っている。また家族とのグループLINEにより簡単な内容の意見交換が行いやすくなった。		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍でなかなか実現が難しいが、グーグルアースを利用した疑似旅行体験や出身地の映像を見るのは好評で活用している。		
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	認知症に特化したホームであるが故、叫んだり物を投げたりすることもあり、雰囲気が悪化することもあるが、席替えをして生活環境を変えたり、風船バレーやトランプゲームなど数人で参加できるレクを取り入れている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された後はご移転先に見舞いに行ったり、仏前にお参りに行く事はあるが、特別なフォローはとっていない。一部の家族とは退去後も年賀状の交換を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	インテークの際、今まで以上に本人や家族から聴きとるようにしたい。		
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・晩酌の習慣がある方（女性）へはビールの提供をしている。 ・前サービス事業者に、利用時の様子などを直接聴きとるようにしている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	体調管理と併せて、食事摂取量や機嫌、睡眠など総合的に把握する様に努めている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	フロアスタッフ、サブリーダー、リーダーが日頃からケアについて折につけ話し合い、リーダー会議に報告して検討している。		
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	平成5年6月より介護記録アプリを使い、日々の記録を行っている。記録はどのスタッフも見れるので、写真、薬等の情報も共有できるようになった。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	散歩の好きな方には、天気の良い日には積極的に散歩に行くようにしている（その時にゴミ拾いも行っている）。また晩酌も拒否することなく柔軟に対応している。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の市民センターの文化祭に作品（ちぎり絵）を出展したり、入居者が神事や町内清掃、災害訓練に参加している。また町内に住む傾聴ボランティアが不定期ではあるが、訪問してくれている（ボランティアは残念ながら中断しているが）。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	平成4年9月より提携医療機関を変更した。24時間体制で医療サポートが受けられるようになった。今後もより入居者が適切な医療を受けられるよう支援していきたい。		
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	スタッフに常勤の看護師がおり、適宜適切な受診と看護が受けられる体制を敷いている。加えて、週1回臨時の看護職員が利用者の健康チェックを行っている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した場合は、看護スタッフが病院との連絡を密にし、早期退院に努めている。入院は家族の希望が特にならない場合は、九州労災病院or北九州総合病院を利用している。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化、看取りマニュアルを作成し、入所の際に家族と、ホームでできること、緊急時の体制につき事前に説明しまた家族の希望を聞いている。また、看取りに関し、提携医の協力を取り付けている。ケアマネージャーには看取りに関する研修を積極的の受講してもらい、所内研修でスタッフにフィードバックしている。		
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	コロナ禍以前は年に2回の防災訓練時に消防隊員の指導の下AEDを使った心肺蘇生の訓練を実施していたが、現在は中断している。来年度から再開する予定。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災訓練は地元消防団、消防署の指導の下行っている。地震、水害対策として、火災訓練の際にスタッフに対して消防隊員から講習を受けている。また、同じ中学校校区の有料老人ホームと災害時の避難先として口頭で承諾を得ている。		
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	スタッフの入職時に秘密保持に関する誓約書を交わすとともに、オリエンテーションで指導している。言葉遣いはややもすると馴れ馴れしくなり、そのことが「虐待」の入り口ととらえている為、職員間で戒めて相互で注意している（毎日の「今日の目標」に取り入れることも）。		
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	できるかぎり自己決定の原則で支援している。例えば飲み物のサービスも画一的にならず、本人の希望を聞いて提供している。また晩酌を希望する入居者には酒類を提供している（健康を損なわない量で）。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	「利用者本位」の支援を目指しているが、時として「業務優先」になりがちな時があり、スタッフ間で注意するようにしている。ただ共同生活である以上、要望に全て応えることは難しく、その場合はきちんと入居者に説明して納得してもらうよう努めている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	生活のメリハリをつける意味でも朝夕の更衣・整容（自らできる方、介護が必要な方含め）に気を配り、訪問美容師による整髪を定期的に行っている（今はスタッフが行う）。また、食べこぼし等で衣服を汚した場合は、すぐに更衣して、洗濯をマメにするよう心掛けている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の能力に合わせ、料理の下ごしらえ、後片付けを手伝ってもらう一方、食事前には体操、歌、クイズや楽しい会話を取り入れ明るい雰囲気を作る様にしている。。また「ごちそうさまでした」の掛け声に、入居者の輪番制を実施している（画一的にならないように）。		
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	記録アプリを採用し、食事量や水分摂取量がすぐに把握できるようになったため常に水分確保に留意している。また水分確保の為ヤクルトを水で薄める等工夫している。更に入居者の嚥下状態に合わせた食事形態（ミキサー、とろみ）にしている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食前にはうがい、口腔体操、歌を取り入れ、嚥下がうまくいくように留意し、毎食後の口腔ケアを実施している。うがいができない方には歯磨きティッシュを使用している。夕食後は義歯をポリデントにより洗浄している。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	昼間はトイレに座り用を足すことを励行している。パット内に排泄してしまっていることも多々あるが、その中で1～2回でもトイレで排泄することがあるので、定期的に誘導している。またトイレのサインを出すこともあるので常にサインを見過ごすことがないように気を付けている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の体質に合わせた排便コントロール（薬、牛乳、ヤクルト、水等による）を医師と相談して行っている。便秘のひどい入居者には看護スタッフによる摘便も行う場合がある。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	1Fと2Fで入浴日を交互にして、希望者は毎日入れる体制にしている。仲の良い人同士やじっくり一人で入りたい人などの希望に沿った支援をしている。また、ADLに関わらず浴槽に入って湯につかることを基本としている。		
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各人にあった休息や睡眠をとってもらっているが、部屋にこもりきって昼夜逆転にならないよう声かけをし、なるべく日中はリビングで過ごしてもらっている。またADLの低下に伴ってトイレへの距離が近くなるようユニット内での部屋の引っ越しを行うこともある（家族了承のもと）。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬に関しては3重チェックを行い（①夜勤者②日勤者③服薬時のスタッフ）服薬ミス（量、種類）の防止に努めている。また飲みこぼしを防ぐために、完全に飲込むまで確認している。また嚥下、便秘、精神状態等看護スタッフが医師、薬剤師と相談して服薬方法、薬の変更等検討している。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれの能力に合わせた家政（掃除、料理下ごしらえ）を担っていただき、またパズル、ちぎり絵、手芸、歌等、それぞれの趣味、レベルに合わせたレクリエーションや散歩により気分転換を図っている。		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	スタッフの人数の許す限り、温暖な日は交代で散歩に出かけている。また年に数回大型バスを借りて（市の福祉バス）、平尾台、グリーンパーク、買い物ツアー等に出かけていた。またその際は家族、地元ボランティア、中学生に協力してもらっていた。再開を願うばかりである。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力にに応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持は、本人と家族の承諾を得たうえで、原則所持しないようにしている。菓子等購入で入用な時は、ホームで建て替えている。また通販を希望する入居者もいるので、家族の承諾のもと、自由にいただいている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や知り合いに電話するのは原則自由だが、かける際は相手先を確認している。現在携帯電話を所有してる入居者は4名いて、家族等と自由に電話している。一人の入居者に孫4人から交互に手紙が届くので返事を書くよう支援している（拒否されることも多いが）。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関前、中庭や2Fのベランダに季節の花を飾り、道行く人や訪問者および入居者の目を楽しませている。またリビングの壁には季節感がわかるような手作りの作品や行事の写真を掲示し、居心地のよい空間となるよう工夫している（幼稚園のような飾りつけは避ける様にしている）。		
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング以外にも廊下の奥にくつろげる空間をつくり、気の合ったもの同士で窓の外の景色をながめながらおしゃべりができるようにしている。また、気分転換の一環として、定期的に席替えを行っている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族には、使い慣れた家具や、普段使用していた小物やアルバム、家族の写真等を持ち込んでもらうようお願いしている。また信仰上の品や仏壇を持ち込んで入居者もいる。		
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	室内は余計な家具、配線が無い様に、またリビングは動線が確保できるよう、ソファ、車椅子、歩行器の位置に気を配っている。長い直線の廊下は入居者の歩行訓練を行う為、物を置かない様にしている。		

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目№1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○	1. 毎日ある	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				